

(電子メール施行)
農 技 第 1146 号
平成30年6月 4 日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予報第2号を発表します。

平成30年度病害虫発生予報 第2号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	少
	ばか苗病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	平年並	平年並
ナ シ	黒斑病	やや多	やや多
	黒星病	平年並	やや少
	ハダニ類 アブラムシ類	やや多 平年並	やや多 平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多
野菜共通	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(6月2日から7月1日までの天候見通し)

平成30年5月31日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

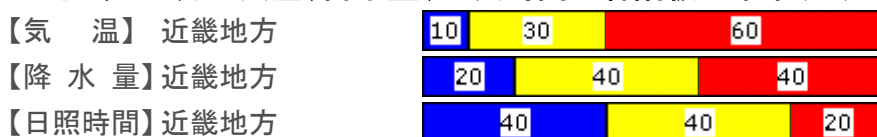
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 6月 2日(土)～ 7月 1日(日)
1週目 : 6月 2日(土)～ 6月 8日(金)
2週目 : 6月 9日(土)～ 6月15日(金)
3～4週目 : 6月16日(土)～ 6月29日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1【いもち病（葉いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の時点で県内における本病の発病は認められていないが、今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

イ 6月上旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによるいもち病の感染好適日の情報を提供予定なので参照にされたい。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)

2【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の時点で県内の一部の育苗苗でわずかに発病を認めている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想され、平年並の発生で推移すると考えられる。

3【ヒメトビウンカ（縞葉枯病）】

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のムギ県予察ほ場におけるすくい取り調査では、第1世代幼虫の発生が認められた。発生量は、幼虫9頭/10回振と平年の45.6頭と比べて少なかったが、今年度については発生時期が遅いとみられることから、今後、平年並の発生になると考えられる。

イ 今後の気温が高いと予想されていることから、成虫になるに伴い、本種のムギからイネ本田への飛び込みが助長されると考えられる。このことより、縞葉枯病の発生が生じることが懸念される。前年度に本病が多発したほ場周辺、およびムギ周辺ほ場では注意が必要である。

ナシ

1【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

ア 5月中旬の場内調査では短果枝の発病葉率2.8%（平年値0.9%）、発生ほ場率83.3%（平年値22.2%）と多い傾向である。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想されることから、ある程度の降雨が見込まれる。以上のことから、今後、高温多湿により本病はやや多い発生で推移すると考え

られる。

(3) 防除上の留意点

- ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を剪去すること。
- イ 大袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、ていねいに散布する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【黒星病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 5月上旬の予察ほ場内ではわずかに発生を確認している。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想され、平年並に発生すると考えられる。

3 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- ア 5月中旬の場内調査では寄生葉率3.3%（平年値1.7%）、発生ほ場率33.3%（平年値16.7%）とやや多い状態であった。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、ハダニ類に好適な条件が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 早期発見に努め、早期の防除を実施する。
- イ 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を剪去し、ていねいに防除する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

4 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 5月中旬の場内調査では寄生葉率5.0%（平年値4.2%）、発生ほ場率16.7%（平年値25.0%）と平年並の発生であった。
- イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されているが、アブラムシ類の発生最盛時期が過ぎていることから、平年並の発生で推移すると考えられる。

果樹共通

1【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類は、園地への飛来が多い年(表年)と少ない年(裏年)を繰り返す傾向が強く、本年は表年に該当する。加西市のフェロモントラップ調査では、4月1半旬～5月5半旬までのチャバネアオカメムシの合計誘殺数は280頭であり、表年過去5年の平均値(257頭)と比べて同等であったが、通年の過去5年の平均値(90頭)より多い。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、カメムシ類の活動がさかんとなるため、果実への加害が懸念される。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 果樹カメムシ類の詳細については、平成30年度病害虫発生予察防除情報第2号(平成30年度6月4日付け)を参考されたい(HPに掲載)

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

野菜共通

1【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ設置以降、加西市では、4月4半旬～5月3半旬の誘殺数の合計が2.7頭であったが、昨年度、淡路島の秋に多発がみられた現地ほ場では、4月6半旬～5月3半旬の間で11頭と加西市より多い誘殺がみられている。

イ 今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、本種の増殖に好適な条件であるため、今後の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>